



I say much whenever I say *yoroshiku* Donna Rasalan Lampa

When a teacher asked me a few years ago which aspect of Japan I found most interesting, I answered right away that it's the language. It fascinates me that in Japanese, one-word terms like *ikigai* and *kaizen* can capture complex cultural concepts in as few characters as possible, or that even everyday words such as *mottainai* and *shouganai* can be reflective of this country's values and ways of thinking.

I've made the most of the school closures this year by getting more serious about learning the language, and I now understand more of its linguistic nuances and can express myself a bit better. But now that I've put in all that work to widen my vocabulary, if you ask me now what my favorite word is, you'll laugh because my Top 1 Japanese term is the very basic, unexciting, and quintessential *yoroshiku*.

A term so cultural and context-based, *yoroshiku* and its other variations seem impossible to perfectly translate to English or even Filipino. I myself have yet to fully understand the term's richness, but I still use it all the time—even with non-Japanese friends who know Japanese—because I believe it also conveys trust, appreciation, gratitude, humility, and respect.

I don't know of any other term that can express all that, and I find myself hoping that all my family and friends who don't speak Japanese could at least understand *yoroshiku*. That way, they could get what I mean when I say it to them, too.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

「よろしくお願いします。」を Please be nice to me.と文字通り話す人に出会ったことがあります。これだと、本当にお願している感が強く、相手は何を期待されているのかと、びっくりします。それならいっそ、堂々と日本語で「よろしくお願いします。」と言ってしまえばいいですね。そもそも「よろしゅしゃしゃ」しか聞こえない人も多いですし。

「よろしく」は雄弁に語る ドナ・ラサラン・ランバ

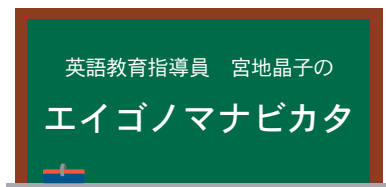
数年前、ある先生が日本のどんな面が一番面白いか尋ねてきたので、すぐ「言葉」と答えました。日本語では「生きがい」や「改善」という一語で込み入った文化的な考え方を捉えられます。それも最低限の言葉で、というところに魅了されました。「もったいない」や「しょうがない」という日常的な言葉でさえこの国の価値観や考え方を反映しています。

今、学校の休業期間を最大限使って、もっと一生懸命日本語を身に付けようががんばっています。だから言葉のニュアンスもよりわかるようになり、自分でも前より少しは上手に話せるようになりました。では、これだけ頑張っただけ自分の語彙力が上がったところで、それならお気に入りのことばは？ともし聞かれたら、笑われるでしょうけど、一番は、非常に基本的、ありきたりで典型的な「よろしく」です。

とても文化や文脈に根付いた表現なので、「よろしく」とかその類いの表現を英語にするのは、いやフィリピン語にさえ完璧に訳すのは無理な気がします。私自身はまだこの言葉の持つ豊かさを完全に理解したとは言えませんが、それでもしょっちゅう使いますし、日本語を知る外国人に対しても使います。というのもこの言葉が、信頼や感謝、謝辞、謙遜、尊敬までも伝えることができると信じているから。

こんな気持ちを全部表現できる言葉を他には知りません。だから日本語を話さない私の家族や友だちも、最低でも「よろしく」がわかっただけいいな、と願わずにはいられません。そうすれば、私がみんなに「よろしく」って言ったときわかってもらえるから。

(訳:宮地晶子)



第173回

A | 翻訳で「大丈夫です。」?

先日、同僚がインターネットで使えるDeepleという翻訳サイトを教えてくれました。日本語から英語、英語から日本語、どちらも無料とは思えない質の高さです。これはもう翻訳業はいらなくなるか？と一瞬思いました。でも、丁度その頃、日本語を英語にする面白サイト“Koa-laEnglish”を発見しました。いわく京都弁で「ぶぶ漬けでもどうぞ？」は、英語ではGet out of here. (出てけ)。「みんな怒ってはるえ」は実は自分が相手に腹を立てているからI'm angry.のこと。英語にしたら身もフタもない。

京都弁恐るべしです。でもそう考えてみたら、自動翻訳ツールなんて、もうほとんど訳に立たないわけです。ドナさんお気に入りの「よろしく」もいろんな意味に使えるからこそ便利なのですよね。初対面ならNice to meet you.やThank you for taking time to meet us.の意味だし、「任せた」という意味ならLeave it up to you. 「～さんによろしく」ならPlease remember me. 状況がわからないと伝わる英語に訳せません。他にも面白かったのが、よくある「全然勉強してないよ。」これは実はI studied all night. (徹夜した)。「行けたら行くよ。」はI don't want to go. (行きたくない)。こんな風に、文化や文脈で意味が大きく変わるといふこと。あからさまに本音を言わない「察してほしい文化」の日本語が特にそうなのかもしれませんね。ちなみに「外国人が絶望する日本語」は「大丈夫」「どうも」「やばい」だそうです。確かにだいぶ前から「ヤバイ」はdelicious. (おいしい!)だし「大丈夫です」に至ってはNo, thank you. (お断り)のことだったりしますね。「本音をわかりやすく」が日本人には必要かも。